

令和6年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	山形大学	タイプ	A
事 業 名	スマート農林業のためのダブルディグリープログラム網の構築		
海 外 の 相 手 大 学	ライプニッツ・ハノーヴァー大学（ドイツ）、トリノ大学（イタリア）、リエイダ大学（スペイン）、トラキア大学（ブルガリア）、プロヴディフ農業大学（ブルガリア）、ブカレスト農学獣医学大学（ルーマニア）		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、AI 及びバイオ技術に裏打ちされたスマート農林業に関連する大学教育プログラムの国際化に向けて、これまでの実績に加えて西欧及び東欧諸国にダブル・ディグリー・プログラム網を構築・展開しようとする意欲的な取組である。

特に、ライプニッツ・ハノーヴァー大学と長年にわたって培ってきたダブル・ディグリー・プログラムの経験を基に、既に予定されているトリノ大学や、続いて計画されているリエイダ大学とのダブル・ディグリー・プログラムの構築に対しては、各大学の特性や貴学との関係性を考慮した対応が織り込まれており、このような着実な段階を追った計画により、その後の東欧諸国へのダブル・ディグリー・プログラム網の展開にも進展が期待できる。

このような展開に当たって、大学の研究の強みや、今まで構築してきた学内教育・研究センターなどの活用が企図されており、全学体制の支援が期待される。さらに地域の自治体や企業などとの協力関係も築かれており、プログラム実現性の面で高く評価できる。また、国際シンポジウムの開催や、原著論文の掲載数などを設定指標としていることも評価できる。

また本プログラムは、学生の実渡航に積極的であることが特徴であるが、長期渡航が予定されているダブル・ディグリー・プログラムへの参加導入として、日本人学生のサマースクールや外国人学生のウインタースクールが企画されており、学生の参加意欲を促進する面でも期待が持てる。

以上のように、本プログラム計画は、今後日本と欧州にとって重要性を増す AI 及びバイオ技術に裏打ちされたスマート農林業の発展と、それに関連する大学間のダブル・ディグリー・プログラム網の実現に貢献するものと期待される。

一方で、多くの学生の実渡航や海外における教育・研究が計画されているが、プログラム計画の英語力の基準で十分なのか、更なる検討が望まれる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。